



横浜での起業・経営力アップに役立つ情報レター

NEWS LETTER

IDEC ニュースレター

No.18

夏
2016

(年4回発行)

IDEC
YOKOHAMA

【発行】公益財団法人横浜企業経営支援財団

〒231-0011 横浜市中区太田町 2-23
横浜メディア・ビジネスセンター7F
TEL.045-225-3700 FAX.045-225-3737
<http://www.idec.or.jp>

志高く!挑戦する女性起業家を応援します

エフサス

～F-SUSよこはま5周年 支援機能パワーアップ～



私達が皆さまをサポートします!!

女性起業家のためのスタートアップオフィス「F-SUS(エフサス)よこはま」は、開設から5周年を迎えました。今年度から、新たにインキュベーションマネージャー(IM)を配置し、一人ひとりの状況に即した適切なアドバイスや、情報提供機能をパワーアップし、更なる成長・発展をサポートしています。ぜひ一度見学にお越しください。

【第一期生インタビュー:F-SUSよこはま 起業のポイント】

FP(ファイナンシャルプランナー)として起業し、現在、横浜・渋谷・マレーシアまで事業を広げるフリーライフプランニング(中区)の菅原文子社長に「F-SUSよこはま」の活用法や成功の秘訣を聞きました。

—F-SUSよこはまの活用法について

お客さまとの打合せで利用していました。しっかりした場所で相手に信頼感や安心感を与えることができるオフィスだと思います。

—ズバリ!成功の秘訣は?

できる仕事ではなく、自分がやりたい仕事を楽しくできることだと思います。大変なことや成果が出ないことをど

う楽しむかが大事です。逆境にこそチャンスあり!私は大変な思いをした後には、必ずいいことがやってくるということを経験から学びました。結果的にその繰り返しを通して今があると思います。

—起業を志す方へのメッセージは?

F-SUSよこはままでの2年という期間は、新たな展開へのステップの一つだと思っていました。(インキュベーション施設の)居心地のよい環境に甘えてばかりでは雇用される側の立場にすぎず、経営者にはなりきれません。F-SUSよこはまをジャンプ台にし、経営者として「自立」を目指してください。また、起業はチャレンジの連続です。いくらマーケティング戦略を立てても思ったとおりにならない、先が見えないものです。今後どうなっていくのか?何があるかわからないということを不安に思わず、楽しんでください。



次なる事業展開を語る菅原社長

女性起業家支援を担当する職員
の伊藤(左)と鶴田(右)

お気軽に
お問合せください!



菅原社長の言葉からは自信とパワーを感じました。さらに、周りを元気にしてくれる彼女の姿は、今回取材をさせていただいた私たちをも笑顔にしてくれました。今後の事業展開が楽しみです。

F-SUSよこはまは、志を高く持ち自分の目標を掲げ、挑戦する皆さまを応援しています。

Pick Up

横浜発の法被が越境 EC サイト「ええじゃないか JAPAN」とコラボ!

「法被は、英語では『Happy Coat』と呼ばれていることから、海外展開の可能性を感じました。横浜が誇る^{なっせん}捺染技術の魅力の世界中に発信したい」と関東染工業所(港南区)の佐藤社長は語ります。佐藤社長は、昨年10月から月に1度、法被の海外事業戦略の相談にIDECを訪れています。

布地に模様を染めつける技術の一つである捺染。創業以来のこの技術で海外展開を目指す同社にIDECから紹介したのが、多言語・多通貨決済に対応した越境ECサイト「ええじゃないかJAPAN」を運営するマイルストーン(中区)です。このサイトのテーマは、江戸時代の「侘び寂び・雅・粋」。アニメーションを駆使したサイトは見て楽しいだけでなく、100万円を超える日本刀から10円の駄菓子まで様々な商品を取り揃えています。

佐藤社長は、これまでも外資系ホテルや大手百貨店の売場など、訪日客向けの販路開拓に取り組んできました。「IDECと打合せをする中で新しい企画が生まれた。今後も定期的に相談していきたい。」と語っています。

皆さんも「ええじゃないかJAPAN」をぜひ一度訪れてみてください。横浜の伝統が息づく「Happy Coat」が凛々しく掲載されています。

「ええじゃないかJAPAN」のサイトはこちら <https://www.a-janaika-japan.com/>



佐藤社長と「Happy Coat」



国際ビジネス支援の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kaigai/>

問 国際ビジネス支援部 045-225-3730

サブコンタイランド 2016 出展報告



初日に開催されたレセプションパーティー

アセアンへ販路拡大を試みる市内企業が、5月11日から14日までタイ・バンコクで開催された「サブコンタイランド」に出展しました。サブコンタイランドは今年で10年目となる産業部品メーカーが集うアセアン最大級の展示会です。国内外からバイヤーが訪れ、部品調達や委託加工先を探すための場となっています。IDECでは昨年より共同出展ブースを設け、初めて海外展開に取り組む企業にとって利用しやすいような割安の展示スペースを提供しています。

自動車・エレクトロニクス向けなどの部品の展示が多い

中、IDECブースの出展者は、完成品を展示してタイ及びアセアンでの市場調査を目的とした、トライアル出展として利用するケースがほとんどです。今年は、冷却加熱素子を利用した温度環境試験製品を開発するセンサーコントロールズ(中区)、バイオマス発電など再生可能エネルギー技術を活用した製品を開発するファインテック(緑区)の2社が製品や技術を紹介しました。また、エイシン電機(保土ヶ谷区)、シノザワ(港北区)がカタログ展示を行いました。

ブースには技術の優位性について熱心に質問をする来場者の姿も多く見られ、高度な技術の取り込みに関心が高まっているようです。裾野産業が発展しているタイでは地元企業の技術力も高くなり、タイ政府はR&D拠点や高付加価値産業の拠点としての発展を目指し外国企業への優遇策を打ち出しています。これから進出する企業には高度な技術力が必要とされています。

展示会出展は、新規市場開拓地へのPRに加え、現地のニーズを把握し自社の海外展開について検討する機会として活用できます。IDECでは、タイをはじめとした東南アジアへの海外展開支援を行っていますので、関心のある企業の方はぜひご相談ください。

国際ビジネス支援の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kaigai/>

問 国際ビジネス支援部 045-225-3730

■ Pick Up

リスクに備える BCP(事業継続計画)は、悩む前に相談を

「自分たちだけで悩まず、BCP策定を思い立った2年前に支援を受けていれば、今回の地震に間に合った。計画があれば迅速な支援ができたはず。」アメニティ(神奈川区)のBCP策定責任者・鳥巢氏は平成28年熊本地震をこう振り返ります。自社の基本計画は今年3月に策定したものの、支店等の出先機関の計画に着手しようとする矢先に地震が起き、益城町の代理店が被災。支援は予想もしない困難の連続だったそうです。

同社は2年前、BCP担当者をおいて計画策定を進めましたが、災害規模や被害の想定をどうすれば良いかに悩み、策定が進みませんでした。そこで今年1月、IDECの中山ビジネスエキスパートに相談し、アドバイスを受けながら、本社が被災した想定に絞り約3か月間で基本計画を完成させました。災害規模や被害規模の切り分け作業とともに、本社ビ

ルの太陽光発電設備や、倉庫の電動シャッター等、社内設備の見直しも行いました。今回の地震被害を教訓に出先機関の計画も順次、整備を進めるといいます。

自然災害などの事業継続リスクは、いつ発生するかわかりません。最初の窓口相談は無料ですので、社内で悩まずIDECの専門家を積極的に活用してリスクに備えてください。



災害緊急トイレセットを3月に発売。本社にも常備している

BCP 策定支援についての詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/keiei/consulting.php>

問 経営支援課 045-225-3714

医療機器分野で商機を見出す!～「Medtec Japan 2016」出展報告～

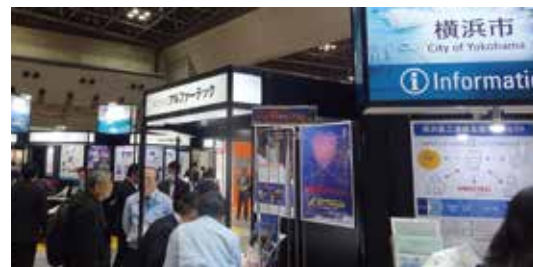
メドテック

医療機器の専門展示会「Medtec Japan 2016」が4月20日～22日、東京ビッグサイトで開催され、「IT活用」、「3D」等といったキーワードが目玉の中、会期中34,000人超の来場者で賑わいを見せました。

IDECでは「横浜医工連携推進事業」の一環として、市内企業16社とともに横浜パビリオンを出展し、シリコーン試作加工品、医療製品用の表面評価計測器、ミクロンサイズの精密加工ピン等、展示会ならではの「目で見て触れる」製品を多数出展しました。出展企業からは、「初めて出展したが、医療業界の情報収集に役立ち、成約見込みも複数件あった」、「展示会后、改めて具体的な話を進めることになった」などの声が寄せられています。

医療機器分野は電機・電子、加工、ソフトウェア等、関連

産業の裾野が広く、今後も成長が見込まれています。市内企業が技術をいかし、医療機器分野で新たなビジネスチャンスにつながるよう、IDECでは、新規参入や医療機器メーカーとのマッチングのほか、医療機器との関連性の高い介護・福祉機器分野も継続的に支援していきます。



横浜パビリオンには1,300人超が訪れました

医工連携推進事業の詳細は技術支援課まで

問 技術支援課 045-225-3733

「販路開拓」に向けた支援体制を強化!～販売・企画マネージャーを4人体制に～

中小企業支援コンシェルジュ事業では、マネージャーとIDEC職員がチームを組んで、販売・企画、広報を中心に、顧客開拓や売上アップに向けた支援を行っています。この支援体制をさらに強化するため、今年4月から新たに4名のマネージャーが加わり、幅広い業種や相談内容に柔軟に対応しています。

各マネージャーは、メーカー・流通・デザインプロデューサーなど多様な分野で活躍してきた経験を持っています。この事業では、製品企画や提供するサービスのコンセプト立案から販路開拓まで、上流から下流にわたり売上アップに必要な支援を行い、業界も、BtoC・BtoBを問わずサポートしています。

最近の事例では、化粧品を開発した企業の販売戦略の策

定を支援。相談企業とともに、製品の強みを整理し、有望な販路先の選定を行いました。現在、初回生産分の販売先を確保し、次回生産分の販路拡大に向けた支援を継続中です。

この事業は、何回でも無料で利用でき、経営支援課で申込みを受け付けています。HPで詳細をご覧のうえ、電話でお問合せください。



4名の新マネージャー。皆さまと二人三脚で販路開拓を後押しします

コンシェルジュ事業の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/keiei/concierge/>

問 経営支援課 045-225-3714

■ 各種イベントのお知らせ

2016.7～9



イベント名 / 会場	日程 / 時間
財務セミナー(全2回)今ならまだ大丈夫!! 8割の経営者が誤解している決算書の見方、いかし方 / IDEC大会議室 決算書の読み方について基本的な部分から、多くの方が誤解しているポイントまで2日間で学びます。	7月12日(火)、14日(木) 18:30～20:30
創業セミナー ケーススタディで学ぶ! 事業計画作成のポイント / IDEC大会議室 金融機関に提出する創業計画書を使用しケーススタディを用いてワークを行いながら、事業計画作成のポイントを解説します。	7月28日(木) 18:00～20:00
創業・経理セミナー(全2回)創業に必要な実践経理術～経理のポイントを押さえて楽々経理 / IDEC大会議室 創業時に必要な経理の基礎知識について1日目には理論を2日目には実践方法を解説します。	8月2日(火)、4日(木) 18:30～20:30
起業チャレンジセミナー / IDEC大会議室 創業を志す方を対象に、経営者としての心構えや、創業前にどんなことを知り、調べ、考えておく必要があるのかについて解説します。	8月25日(木) 18:30～20:30
見せるだけで注文が入る! チラシ・パンフレットの作り方 / IDEC大会議室 販促ツールとして広く利用されるチラシ・パンフレット。効果を上げるためのテクニックを、中小企業が陥りがちな失敗例を交え、わかりやすく解説します。	9月1日(木) 18:30～20:30
上海デザインビエンナーレ2016 横浜ブース[texti yokohama](予定) / 中国上海展覽中心 プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、アーバンデザイン等に関する展示会です。市内の中小企業とクリエイターのコラボレーション [texti yokohama]等のデザインを紹介します。	9月1日(木)～3日(土)

その他多数のイベントを開催しています。詳細はウェブをご覧ください。

IDEC 横浜

検索

一みなどみらい線「日本大通り駅」直結0分
横浜情報文化センター



入居者
募集中

開放的な窓で明るい
オフィス

みなと横浜を代表する
日本大通の歴史的建築物

現在、4階(729.15m²)のオフィス入居者を募集中。

●アクセス

みなとみらい線「日本大通り駅」
地下連絡口直結
JR、横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
中区日本大通11番地
Tel.045-664-3737



その他の施設の詳細はIDECホームページ <http://www.idec.or.jp/>「施設案内」メニューから、各施設の入居募集案内をご確認ください。詳細は、施設経営部 問 045-225-3710 まで。

■ IDEC 上海事務所レポート 中国高齢者向け産業への進出を支援しています

上海事務所 副所長 岩田 健

IDECは、市内中小企業の介護・リハビリ分野での中国市場への進出も支援しています。横浜を中心に3か所の介護資格研修スクール「Willカレッジ」を運営するツヴァイク(中区)は、中国の易盟集団をパートナーとして中国での研修事業を行っています。人材派遣や在宅介護を行っている易盟との数年にわたる努力が実り、2014年に上海へ講師を派遣、研修事業を開始しました。研修の内容は日本のカリキュラムのままではなく、中国の資格制度や教育体系にあわせたり、介護職以外に看護師の受講が多い中国

の状況に対応した課程を構築しています。「中国社会に飛び込める日本人講師を派遣できるのは、小さい会社ならではの強み。中国の日系事業者で“教育だけに特化しているケース”はほとんどない。」(大窪社長)と自信をのぞかせます。6月には上海にて、さらに新たな提携候補企業を開拓し、今後の中国市場戦略を策定するため、同分野で中国最大規模の展示会である中国国際福祉機器展(チャイナエイド2016)の横浜ブースに出展しました。横浜ブースはIDECが設置したもので、市内企業

7社と出展しました。今後とも上海事務所は同分野への支援を継続していきます。



中国事業を推進する大窪社長(右)

編集
後記

本号では、女性起業家支援や販路開拓支援(コンシェルジュ事業)の体制強化のほか、IDEC支援事例についてご紹介させていただきました。IDECでは、皆さま個々の課題に応じた様々な支援メニューをご用意しています。IDECの総合力をいかし、皆さまの「困った!」に最適にお応えできるよう努めてまいりますので、ぜひIDECをご活用ください。本紙について、ご意見、ご感想もお待ちしております。